

唐湊果樹園の JGAP 認証による安全・衛生管理への取り組み ～カキにおける認証取得事例～

○兒玉 真紀、福留 弘康、濱田 延枝、勘米良 祥多、宿里 香代
鹿児島大学 農学部 附属農場 唐湊果樹園

1.はじめに

JGAP (Japan Good Agricultural Practices) は、持続可能な農業の実現を目指し、食品安全、環境保全、労働安全、人権の尊重などに関する農業生産工程管理の基準を定めた認証制度である。JGAP 認証を取得することで、持続可能な農業に取り組んでいることを客観的に証明することができる。また、JGAP は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会や大阪・関西万博において食材調達基準として採用されており、今後国内で開催される国際的なイベントにおいても、調達基準への適合性が高い農産物を示す認証として重要な役割を果たすことが期待されている。

唐湊果樹園では、2025 年 11 月に「カキ」で JGAP 認証を取得したため、認証取得に向けて実施した安全・衛生管理の取り組みについて紹介する。

2.認証取得に向けた安全・衛生管理の取り組み

(1) 衛生管理

食品安全の確保に向けて、生産から出荷までの各作業工程における生物的、化学的および物理的リスクを抽出し、発生頻度と結果の重篤性に基づいてリスクの重要性を評価した。そのうえで、各リスクに対する予防・低減対策を文書化し、職員間で共有した。作業者には職員だけでなく学生も含まれることから、JGAP の考え方にに基づき、手洗い、手袋の着用および器具の適切な取扱いについて教育・指導を実施した。さらに、適正な農薬使用を目的として従来の農薬使用計画を見直し・充実させるとともに、散布後には農薬使用記録簿への記帳に加え、農作業や圃場管理の記録・共有を一元的に管理できる営農支援ツール「アグリノート」への記録を導入した(図 1)。加えて、残留農薬検査計画を策定し、出荷前の残留農薬分析を実施した。

(2) 環境整備

唐湊果樹園では、従来から片付けや道具の整理整頓に取り組み、作業の効率化を目指してきた。一目見て必要な道具が探せるよう置き場所を工夫し、特に学生実習で使用する道具は一部屋にまとめ、使用頻度が高い道具に番号を付し、個人管理を導入した。また、使用後の洗浄や手入れについても学生への指導を徹底し、適切に収納することで、道具管理の効率化を図っている。農薬については保管場所の施錠管理に加え、交差汚染および環境汚染を防止するため、粉剤・粒剤の上に液剤を置かない、開封済み農薬をトレイ上に保管するよう配置を変更した。また、混用順序や取扱方法を示したポスターを掲示することで安全な農薬使用の徹底に努めた。廃棄物保管場所では、防草シートの敷設による管理の省力化と、廃コンテナを利用し、資材区分をすることによって保管環境を良好に保てるよう整備した。

(3) 労働安全

JGAP に基づく適切な農場管理を行う組織管理体制を構築するため、経営者を農場長、農場責任者を農

場主任、労務管理責任者を農獣医附属施設係長、商品管理・肥料管理・農薬管理・労働安全の責任者を唐漬果樹園技術総括とし、責任者を明確化した。非常時に備え、農林水産省が公表している農業版 BCP（事業継続計画）フォーマットを活用して自然災害等への対応を整理し、農場運営におけるリスク管理体制を構築した。現場では、刈払機やスピードスプレーヤなどの機械作業ごとに、労働災害の防止を目的として事故や怪我の危険要因を抽出し、リスク評価を実施した。リスクの高い作業については対策を文書化するとともに、職員間で情報共有できる体制を整備した。例として、アグリノートのマップに危険箇所を表示する機能を利用した（図 2）。また、事故発生時の対応手順を作成し迅速な対応ができるよう備えた。



図 1. アグリノートの農業作業記録



図 2. アグリノートの危険箇所マップ表示

3.取得後の取組み

JGAP 認証を取得したカギは、落葉果樹における学生実習の中心と位置づけ、剪定、施肥、堆肥散布、摘果、収穫、脱渋などの管理を年間を通じて行っていることから、JGAP の考え方や取組内容を学生へ紹介し、安全・衛生管理の実践教育に役立てている。また、日本 GAP 協会のホームページや SNS で本事例が紹介され、大学における JGAP 認証取得事例として周知されている。

4.おわりに

GAP は農業経営における基本的な管理手法であり、特別な取組みではない。しかし、認証を取得することで、農場管理が適切に行われていることを第三者機関によって客観的に確認・評価され、その取組みを対外的に示すことができる。今回の取組みを通じて、教職員間で JGAP に関する学習会を行ったり、食品安全や労働安全に関するリスクの抽出・文書化を進めたことで、共通認識が形成され、具体的な対策の実施につながった。また、環境整備や整理整頓の推進により作業効率の向上も認められた。今後は、これらの取組みに対する学生の理解を深めるとともに、実習を通じて実践的に学べる機会を充実させることで、安全・衛生管理に対する意識の向上を図りたい。